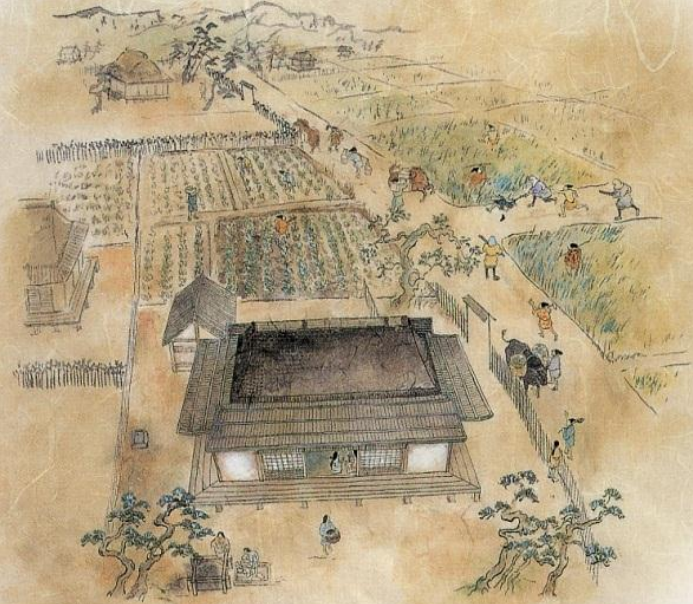


発行 豊中市教育委員会
2000年3月31日発行
編集 社会教育課文化財保護係
印刷 図書印刷株式会社
協力 宗教法人 南郷 春日神社
福岡市教育委員会



とよなか文化財ブックレットNo.8 通史編Ⅶ



莊園物語



— 遠くて身近な中世の豊中 —

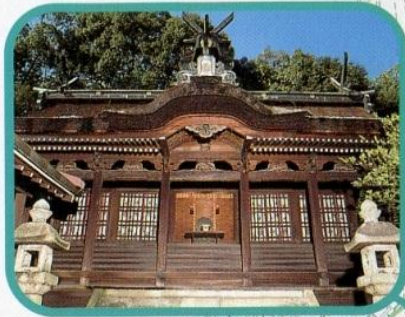
豊中市教育委員会

中世をみつけに行こう！

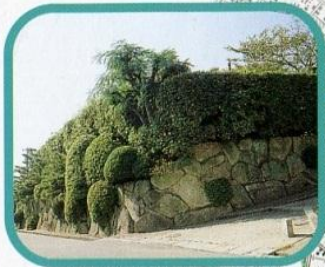
中世って、どんな時代？

中世といえば、鎌倉幕府の成立から関ヶ原の合戦まで、武士が活躍した時代のように思うよね。でも、そのころの記録を調べてみると、鎌倉幕府の御家人や戦国大名に豊中ゆかりの人はいないんだ。じゃあ、豊中ではどんな人々が活躍したんだろう。それは、農業や手工業などにたずさわる様々な人たちなんだ。彼らは、「名主」と呼ばれる有力な農民たちを中心に「荘園」という中世独特の世界の中で、時には領主であった寺社や貴族に反発したり、またあるときは地頭や守護になった武士とも対抗しながら、戦乱や災害などいろいろな困難に立ち向かいながら、いま私たちが住む豊中の伝統的な文化や社会の原形をつくっていった。

シタラ神事件（文化財ブックレットNo.7「津の国 てしま」18頁）から百年後、力をたくわえてきた様々な人たちが活躍した中世の豊中はどんな様子だったんだろう。これから一緒にさぐってみよう。



原田神社 (⇒11p)



原田城 (⇒5p)



原田山城 (⇒49p)



穂積村囲堤 (⇒9p)



南郷目代 (⇒14p)

中世にかかわるものってたくさん残っているね。



これでも、ほんの一部なんだって。探せばもっとみつかれるかもね？

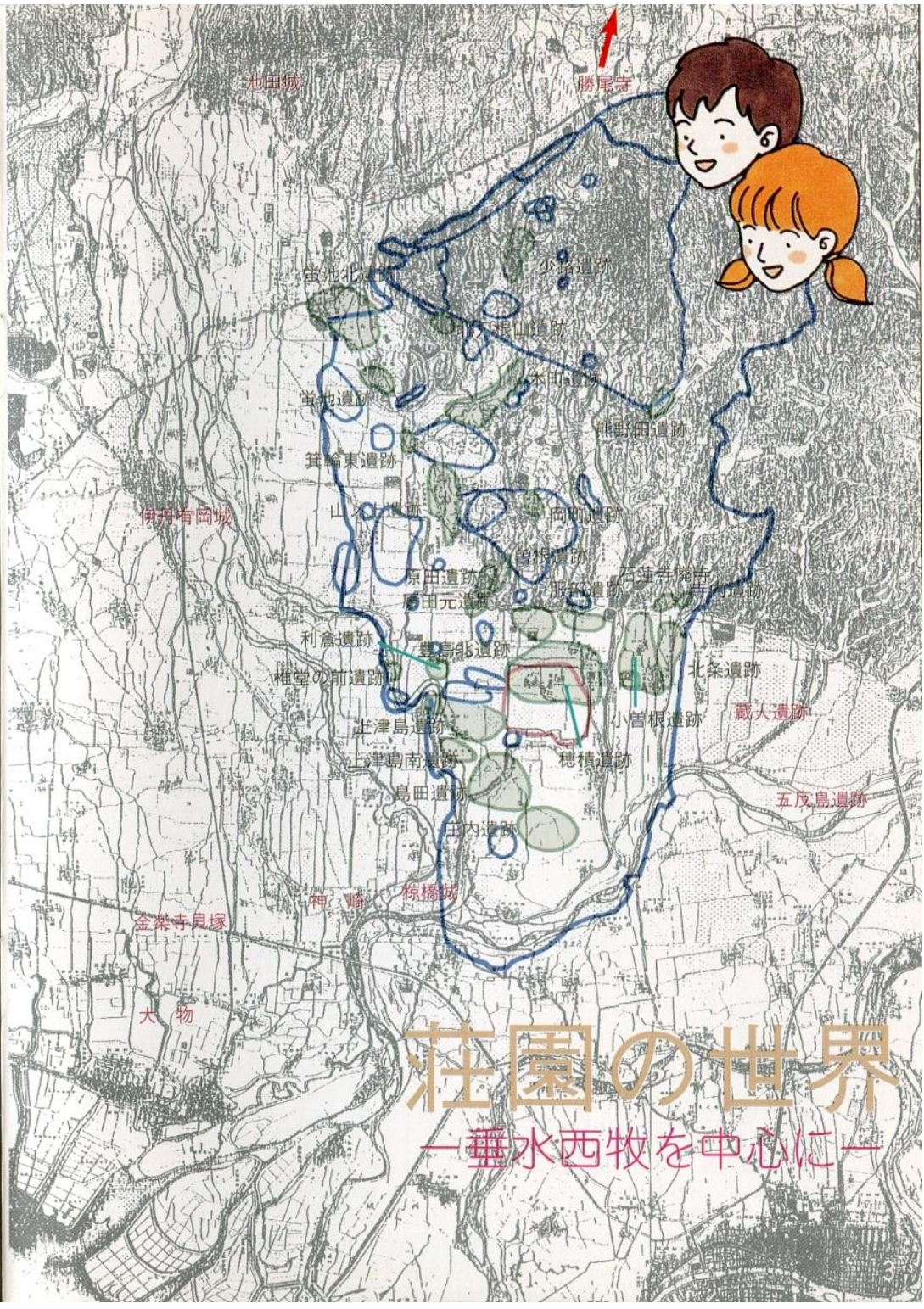
この地図は、『豊中の文化財』（豊中市教育委員会発行）などをもとに作成したものです。



豊中の主な荘園

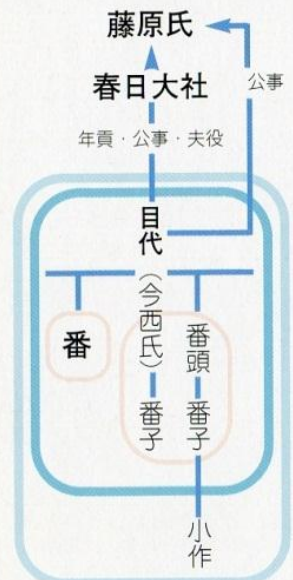
けんた やよい
 けんた やよい
 けんた やよい
 やよい

ところで、「荘園」って何なんだ。
 ふうつう、貴族や寺社が持っている土地のことをいうの。でも、その土地で田畠を耕したのは、名主をはじめとする農民たちなんだって。名主と貴族や寺社って、どんな関係なの？ 貴族や寺社は年貢や公事を取り立てるかわりに名主を保護したり、農業の発展を応援するの。でも本場のしくみは下のモデル図より、とても複雑でわかりにくいらしいよ。
 豊中には、どのくらい荘園があったのかな？ 左の図のように、大きな荘園が4つくらい。本場だ。なかでも垂水西牧が一番大きいね。垂水西牧は記録が多く残されていて、当時の様子がわかりやすいことで有名なんだって。



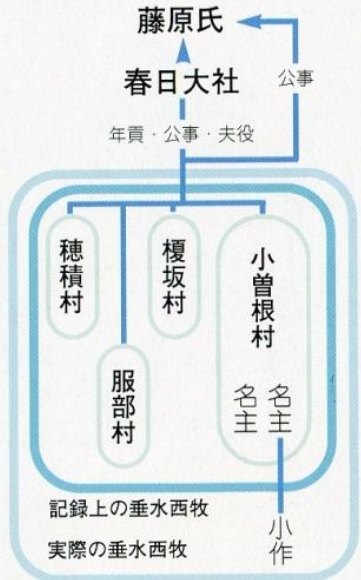
荘園の世界

—垂水西牧を中心に—



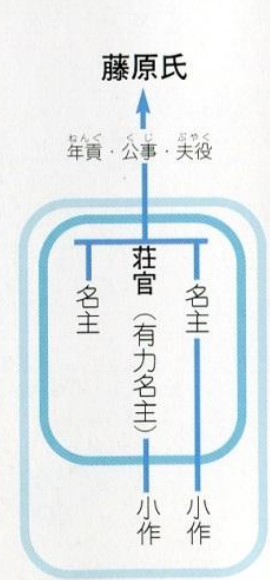
室町・戦国時代

室町時代頃には、春日大社から現地支配のために今西氏が派遣される。有力名主を番頭に、他の名主を番子とし、番頭22人で番を組んで四つの番で年貢の納入を分担した。



鎌倉時代

1183年に藤原氏から春日大社へ荘園の管理権などが移され、二重の支配体制になる。また鎌倉時代後期になると、年貢などは村毎にまとめて納めるようになる。



平安時代

荘官になった有力名主が年貢などをとりまとめて、藤原氏に納める。1189年頃の名主の数は97人くらいと、他の荘園よりとても多いのが特徴だ。

荘園のしくみ (垂水西牧榎坂郷の場合)



井戸 (第13次調査区)



小曾根遺跡の屋敷 (第13次調査区)



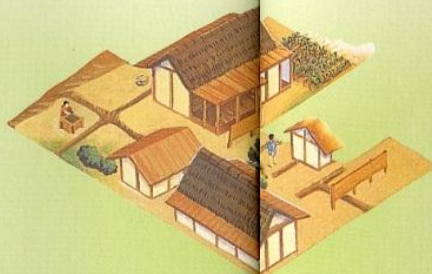
小曾根遺跡の屋敷 (第15次調査区)



皿を埋めた穴 (第13次調査区)



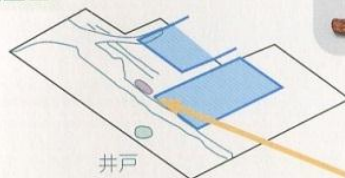
墓石 (第13次調査区)



平安時代の村の様子
(小曾根遺跡からイメージ)

村に住んだ人々

第15次調査区



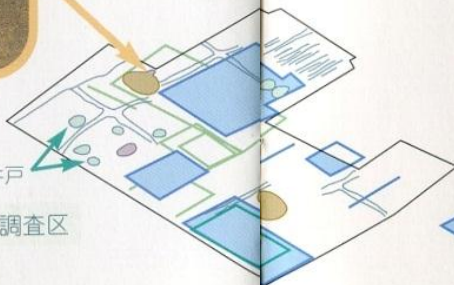
お墓にそなえられた品物



お墓 (第15次調査区)

平安時代後半になると、屋敷地の中にお墓をつくる習慣が広まります、小曾根遺跡でみつかった屋敷墓には、その屋敷をつくったと考えられる中年女性が葬られていました。

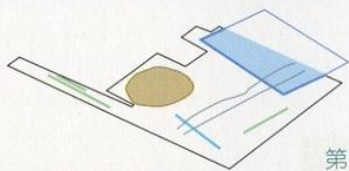
第13・16次調査区



小曾根遺跡の屋敷
(イラストの元図)

- イラストで復元した建物
- その他の建物
- 堀
- ゴミ穴
- お墓

第7次調査区



やよい それに、発掘調査では垂水西牧榎坂郷にあった小曾根村の一部も見つかっている。左のイラストはその様子を復元したものだ。

けんた へえー！ずいぶん立派な屋敷だね。主家のまわりには井戸やお墓もあるよ。ここに住んでたのはどんな人だったのかな。

やよい さっきも言った名主の家らしいよ。

けんた 名主って、思ったより裕福なんだね。

やよい 荘園の経営をうけおっていた人たちなんだから。でも、こういう屋敷ができるまでには大変な努力があったの。



現在の田堤（服部寿町付近）



発掘された小曾根村の用水路
(小曾根遺跡第24次調査)



発掘された穂積村の田堤
(穂積遺跡第21次調査)

穂積村の周囲には、東西1km、南北0.8kmもの堤が巡らされています。この堤は水害などから村をまもるために、室町時代後半に作られたらしく、戦後しばらくまで改修されながら使われました。



島田村の堤（野田町・庄内幸町付近）

穂積村田堤の南側には、島田村の堤があります。これも作られた時期ははっきりとしませんが、田堤と同じく中世にさかのぼるものと考えられます。

大地に いぶきを 一村と田畠の移り変わり



溝で囲まれた村（小曾根遺跡第13次調査）
室町時代になると、小曾根遺跡では幅5m、深さ1.5mもある溝で村のまわりを囲むようになります。溝の内側には、建物や井戸の跡が、また外側には田畠の跡が見つかります。この溝をさかいに村と田畠が完全に区別されていた様子がわかります。

けんた 鎌倉時代の田畠の面積って、平安時代末からあまりふえていないんだね。穂積村だと、1.2倍だけだし。

やよい なにいつてるの。平安時代ころは、今みたいに毎年耕せる水田はとも少なくなくて、たくさん田畠を作っても、すぐに荒れてしまうことが多かったの。でも、鎌倉時代には毎年耕せる水田が増えて、その上二毛作もできるようになるんだから。

けんた なるほど、田畠をふやすより技術力で作物の収穫量をふやそうとしたんだ。

やよい それに室町時代になると、それまでバラバラだった水田や畠をまとめて、用水路も新しく作ったり、掘り直して耕しやすいうよう工夫するの。屋敷だって、一か所に集まって村をつくるんだから。

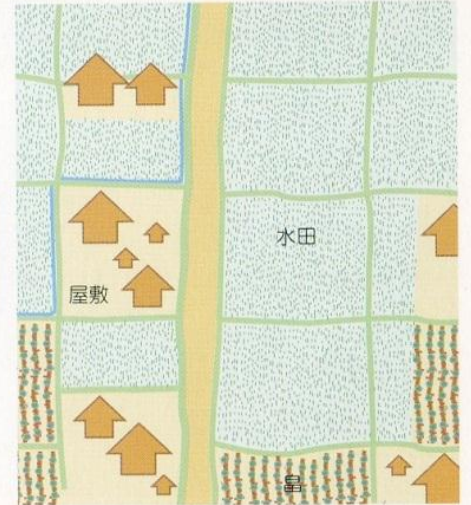
けんた なんか室町時代で、豊中の風景がすごく変わったみたいだね。

やよい 百年くらいのうちに、風景がこれだけ変わるようなことって、このあと豊中が住宅都市に変わるまでないの。

けんた ということは、一昔前までみられた豊中の風景って、だいたいこの時代にできあがったんだね。



室町時代ころのようす



平安時代ころのようす



豊田北遺跡第3次調査

用水路のうつりかわり

平安時代後期の用水路は、古代の豊嶋郡条里と呼ばれる碁盤の目のように分けされた田畠の間に、幅1~2m、深さ0.5mくらいのものが作られていましたが、室町時代には条里とは関係がないところにも幅2m以上、深さ1.5m以上という大きな用水路が掘られます。この時代には村が中心になって、用水路のほかにも堤防やため池をつくる大きな工事が進められるようになります。

都・港・そして海外へ



中国産の陶磁器
つぼ 壺
わん 碗
さら 皿



博多で見つかった大阪？人の墓
(提供：福岡市教育委員会)
博多で見つかったこのお墓には、大阪周辺で作られたお椀と皿がそなえられていたことから、葬られたのは大阪から来た人と考えられます。



つぼ 壺
わん 碗
さら 皿
せと 瀬戸
みのやき 美濃焼



かめ 甕
とこなめやき 常滑焼



わん 碗
さら 皿
とうがいさん 東海産の須恵器



ひばち 火鉢
ひばち 火鉢

けんた
やよい
けんた
やよい
けんた
やよい
けんた
この地図は、豊中で出土した中世の焼物や石鍋をもとに、人々や品物の往来をあらわしたものだ。
東は愛知県から西は長崎県、それに中国。なんか、今とあまり変わらないね。
それだけ、中世では品物の往来がさかんだったことだね。それに、博多では大阪から来たらしい人の墓も見つかっているんだ。へえー。品物だけでなく人の方もあっちこちに行っていたのね。
でも、これだけ各地の焼物がたくさん出土するのは、豊中以外では珍しいんだって。どうして、豊中だけたくさん出土するの？それは、猪名川(藻川)と神崎川(三國川)に秘密があるんだ。



いしなべ 石鍋



長崎県産の石鍋
その他の地域の焼物



すり鉢
かめ 甕
つぼ 壺



ひぜんやき 備前焼



わん 碗
つぼ 壺
さら 皿
かめ 甕
こね鉢



兵庫県西部の須恵器

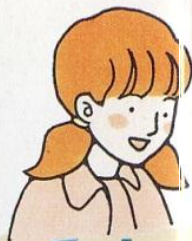




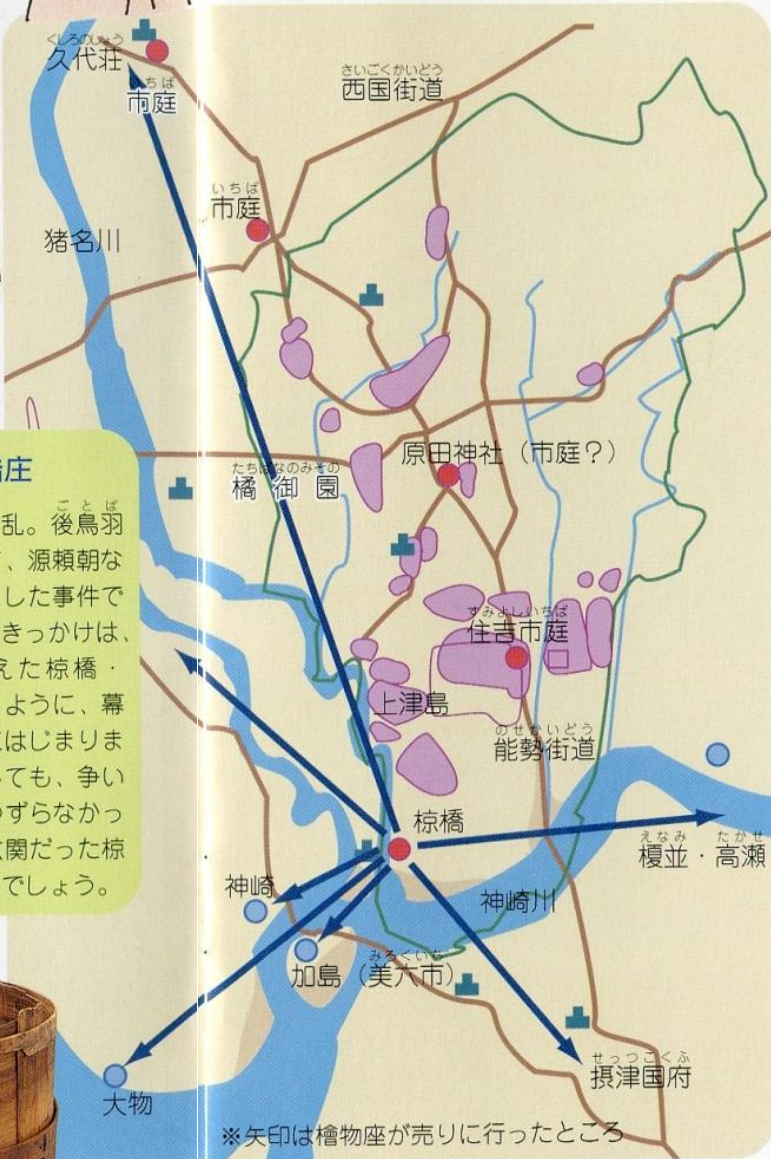
京都産の土師皿（かわらけ）
この時代、平安京（京都）周辺でつくられた素焼きの皿（土師皿）は、人気の商品でした。豊中をはじめ、全国各地に運びこまれたり、それぞれの土地で似せたものがさかんにつくられたりしました。



かわらけ売り
(絵巻物を参考に)



棕橋荘と その周辺



承久の乱と棕橋庄
1221年におこった承久の乱。後鳥羽上皇が朝廷の復権をかけて、源頼朝なき後の鎌倉幕府を倒そうとした事件です。ところで、この事件のきっかけは、後鳥羽上皇が亀菊に与えた棕橋・長江荘から地頭が出ていくように、幕府につよく要求したことに始まります。ただの言いがかりにしても、争いになるまでお互い一歩もゆずらなかつたくらい、瀬戸内からの玄関だった棕橋荘はとても重要だったのでしょ。



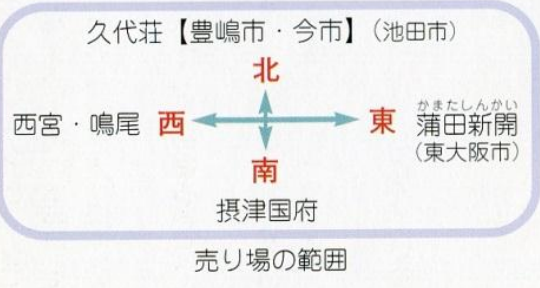
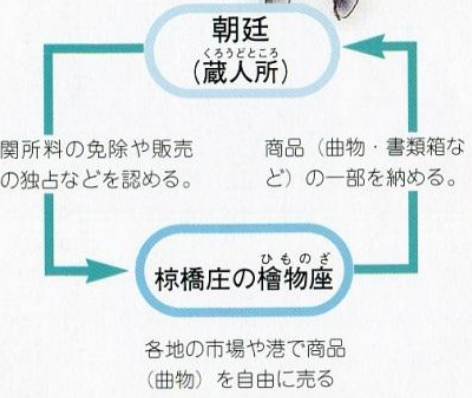
まげもの
曲物（上津島遺跡出土）

もしかしたら、奈良時代に上津島あたりがベイエリアだったことにも関係がありそう。(ブックレットⅦ) そのとおり。昔は上津島あたりだったけど、平安時代後期になると神崎川河口の尼崎市の大物や神崎、それに大阪市の加島あたりが港になってさかえるんだ。瀬戸内の年貢や名産品は、ここから神崎川をさかのぼって、京都に運ばれたからね。

瀬戸内から運ばれてきた荷物の中には大物、加島や神崎でお金や別の品物にかえられたものもあるから、それで豊中の遺跡からたくさん各地の焼き物が出土するんだ。

特に、港の近くにある棕橋荘（庄本町）は、各地の名産品が集まってにぎやかになっていったかもしれないね。ここまできたら、各地の品物が手に入るし、その気になればいろんなところにも行けて、そのうえ、いろいろな商人や職人も集まってくるし。

そうそう、棕橋荘には榎物座ってよばれる木製の容器（曲物）や箱をつくって売り歩く人々が住んでいたことでも有名だったね。



売り場の範囲

棕橋庄榎物座のしくみ

棕橋荘の榎物座と豊中周辺の市庭と津
(『大阪府史』第二巻などを参考に)

やよい

けんた

やよい

けんた

やよい

けんた

やよい

けんた

やよい

けんた

白っぽい布で顔をおおっているのはだれだろう。あの人たちは、神人と呼ばれる春日大社からの使者なの。(平安時代末に垂水西牧にかかわる権利の大部分は、藤原氏から春日大社へゆずられます。)

なんで、春日大社の使者と村の人が争っているんだろう。なにか、年貢のことで争いが始まったらしいよ。鎌倉時代後期には、こういう争いがどんどんふえるんだって。年貢をふやしたり、取り立てをきびしくしたのかな。この頃になると、年貢をへらそうとする村人たちの動きが強まってきて、春日大社も困っていたらしいの。それだけ村の人たちの力が強くなってきたんだね。それで、春日大社はどんなふうなのかな？

最初は春日大社も争いをおこした人を村からおいだしたり、その家をもやしたけど、次第に村の代表になった人といういろいろ話し合ってお互いの約束を守るようになるの。へえー。でも、室町時代には、荘園の多くは守護やその従者の領地になるっていうけど、垂水西牧ではどうだったのかな。

室町時代には、春日大社から垂水西牧へ目代(村で年貢のとりまとめや事務をする人)としてうつり住んだ今西氏が春日大社と村人との間をとりもって、年貢の方もうまくおさめられたらしいよ。でも、室町時代後半からは思うようにならなくなるの。



今西氏屋敷の溝 (戦国時代)
(小曾根遺跡第17次調査)



再建間近の今西氏屋敷

1995年に起きた阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた今西氏屋敷は、五年にわたる大修理で江戸時代中頃の姿に近いかたちで復元されます。《提供：(株)金剛組》



▲江戸時代の今西氏屋敷 (復元図)
(旧『豊中市史』第1巻を参考に、一部加筆)



長興寺事件のようす (イメージ)

動乱の時代へ

—長興寺事件とその後の垂水西牧—



長興寺事件のあらまし

この事件は、1265年に垂水西牧長興寺で忠茂法師ら村人が春日神人と争ったことにはじまります。春日大社は彼らをすぐに指名手配し、翌年には忠茂法師の情報を手に入れて、神人たちを現地へ向かわせます。現地では、忠茂法師方の激しい抵抗にあい、忠茂法師方の民家4軒を焼いただけで帰ります。

かぶくで問題を解決しようとする春日大社の姿勢は、村人の反発をいっそう強めることになりました。その結果、同じような事件が何度もくり返され、垂水西牧での春日大社の支配は次第に弱まっていきました。



発掘された室町時代の名主屋敷
(穂積遺跡第23次調査)

屋敷地を囲む溝にはたくさんのお皿や珍しい中国製のお椀が捨てられていたことなどから、有力な名主の屋敷と考えられています。



江戸時代の絵図に記された原田城
 【摂津国豊嶋郡原田村絵図】
 (文政七年(1824年)原田中倉村文書)

原田城をめぐる合戦

1470	細川氏側につき、大内氏ら東軍に攻められる(応仁の乱)
1541	細川晴元と対立した三好範長側についたため、木沢氏に攻められる。
1546	細川晴元と対立した細川氏綱方についたため、晴元方に包囲され、城を明け渡し落城する。
1570	織田信長と対立した三好三人衆側の池田氏を攻撃するため、細川藤孝(信長方)の陣地にされる。
1578	荒木村重の反乱により、信長方の陣地になる。

も戦場になることも多かったし。やよい けんた

そのぶん、戦乱にまきこまれたり、大変だったんじゃないの。応仁の乱がはじまってからは、豊中



原田城の堀(15世紀頃)



出土した飾り

原田城(北城)

国人たちの登場

—原田城とその周辺—

けんた なるほど、それで垂水西牧は戦国時代に

けんた だって。原田氏は有名だけど、原田氏はどんな人

けんた だったの。

けんた 原田氏は垂水西牧六車郷(原田郷とも言います。)の国人で、室町幕府で將軍の補佐をした細川氏(摂津守護)とも少しだけ関係があったみたい。

けんた それなら、やっぱりお城とかに住んだらうね。

けんた 原田氏の城は江戸時代の地図から、イラストのよ

けんた うに、原田村の北にある小高い丘の上(北城)と、村の中(南城)に二つあって言われているの。

けんた それに北城の方は発掘調査で堀や土塁のあとがいろいろ見つかったの。

けんた へえー。二つも城を持つなんて、びっくりだね。

けんた そのぶん、戦乱にまきこまれたり、大変だったんじゃないの。応仁の乱がはじまってからは、豊中

けんた 室町時代になると、垂水西牧でも原田氏という有力者が現われるし、池田には、池田氏という摂津でも一、二を争う有力者(国人といえます。)が登場するの。

けんた やっぱり、こういう人は莊園を自分の領地にしようとするよね。

けんた でも、池田氏や原田氏は垂水西牧で年貢の取り立てをうけおったりしたけど、自分の領地にはできなかったの。

けんた どうしてかな。

けんた 実は、池田氏も垂水西牧を一度横取りしたんだけど、失敗したの。たぶん、村人の反発が強くて、直接支配できなかったんじゃないかな。



空から見た原田城

原田(北)城は豊中台地の南西から伸びる小高い丘の上にあります。この場所は、原田村や猪名川一帯が見渡せ、そのふもとには原田神社と猪名川を結ぶ桜塚街道が通る交通上の要所だったのです。今では原田城も住宅地になっていますが、北城の西側には土塁が残り、面影がうかがえます。

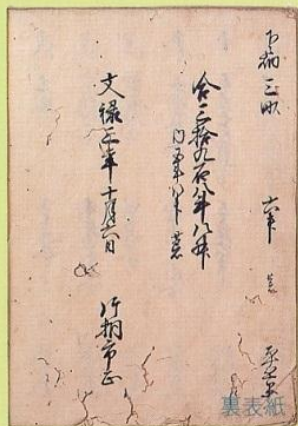
中世から近世へ

—織田信長の入京から太閤検地まで—

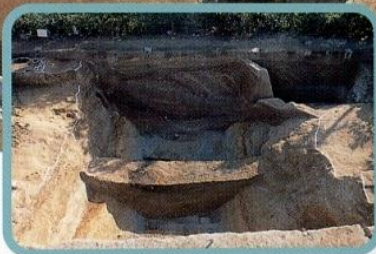
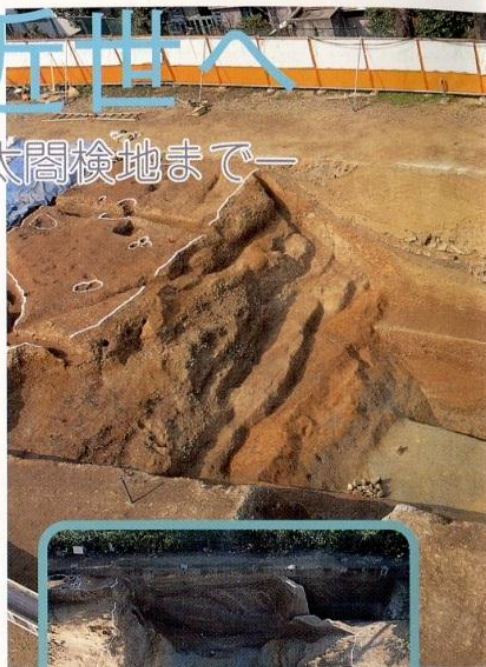
豊中市内に残る太閤検地帳

太閤検地とは豊臣秀吉が1586年頃に行なった全国規模の検地のことをいいます。この検地で、実際に耕作する人が年貢を納めるようになり、これまで年貢をうけおってきた名主たちの特権はなくなってしまい、そして荘園領主と荘園の関係はたち切られました。また、この検地によって中世の社会単位だった荘園制は解体され、村を中心とする近世社会の土台が作られることになったのです。

太閤検地のときに作られた検地帳としては、豊中市内では内田村や長興寺村、若竹村、熊野田村のものが残っています。ところで市内で検地の監督にあたった奉行は片桐市正です。



太閤検地帳（長興寺村文書）



荒木村重の乱の時に掘られた原田城の堀
(原田遺跡第1次調査)



荒木村重の乱と信長の陣

けんた どうして？ 戦争がなくなっていくのに。
 やよい 国内での戦争は少なくなるけど、今度は厳しい
 けんた 検地（土地の調査・太閤検地）が行われて、村
 にはとても高い年貢が課せられるの。
 やよい 戦争で村がこわされたり、平和になっても高い
 けんた 年貢が課せられて、なんか、一難さってまた一
 難だね。
 やよい それでも村人たちは団結して、村を立て直して
 けんた いくんだから。
 やよい なるほど、これだけたくましい村人たちがいた
 から、今のような豊中ができたんだね。

けんた でも一番大変だったのは、織田信長が京都に入
 やよい ったから。
 けんた 信長と対立した畿内の国人たちはほとんど滅ぼ
 されたからね。最後には家臣になった荒木村重
 も、反乱をおこしたし。
 やよい そのときは、豊中一帯が戦場になって、大きな
 けんた 被害をうけたみたいだね。
 やよい そう、原田城や刀根山城は1年近く信長側の陣
 地になるんだ。
 けんた 原田城では幅15m、深さ6mもの堀を作らされ
 やよい たり、村の人はとても大変だったろうね。
 けんた でも、もう少しで平和な時代がくるから。
 やよい そうかなあー。豊臣秀吉が天下統一しても、大
 変だったみたいよ。



刀根山城の一部か？
(北刀根山遺跡第1次調査)

調査でみつかったのは、埋蔵とよばれる遺構です。食糧や染料などをたくわえるなどいろいろな目的で作られました。北刀根山遺跡のものが、どのように使われたのかわかりませんが、織田信長も立ち寄った刀根山城とのかかわりが考えられる遺構です。